

【論文（特集：中国の鉄鋼業）】

中国の鉄鋼業： 爆発的拡大は何故可能だったか（座長解題）

田島 俊雄

21世紀に入って以降の中国における鉄鋼業の発展は驚異的である。

2000年の段階で1億2850万トンであった中国の粗鋼生産は、07年には4億8929万トン、景気が乱高下した08年も5億92万トンと、プラス成長をとげた（『中国統計年鑑2009』）。金融危機下の09年3月には、国務院弁公庁より「鉄鋼産業調整・振興計画」が通達され、300立方メートル以下の高炉、20トン以下の転炉・電炉の淘汰、企業合併の推進等を含む構造調整政策が打ち出されるとともに、同年の粗鋼生産目標値として4.6億トン、2011年で5億トン前後という数字が示された。しかし4兆元とされる内需拡大策、「家電下郷」、「汽車下郷」などの補助金支出に下支えされ、土木・建築工事や耐久財等にかかわる鋼材需要が好調で、09年の生産実績は目標を1億トン以上も上回る5億6803万トンとなった（国家統計局公報2010年2月25日）。

中国では冷戦期の「二本足工業化」路線のもと、70年代には小型高炉をはじめとする県レベルの中小鉄鋼業（「五小工業」）が各地で設立された。これらは80年前後の経済調整で一部は淘汰されたものの、移行経済期の規制緩和を享受して多くは存続し、90年代以降の所有制改革を経て、景気の如何で数百の限界的な中小鉄鋼企業が参入・退出を繰り返す構造が、今日まで続く。

こうしたきわめて分散的な産業組織に対する政策当局のスタンスは、90年代後半以降、構造調整で一貫しており、その基本的な内容は地方の小型設備の淘汰・禁止と、重点大企業による高級品種への生産シフトと輸入代替、企業合併

を含む規模拡大であった。しかし結果として中国全体で政策目標を上回る設備の拡張・拡充が行われ続け、景気が底入れした08年から09年にかけても、鉄鋼業は引き続き拡大した。

かかる事態は何故起きたのか。中国の鉄鋼市場の構造は、ミクロ・セミマクロのレベルでみていかなる状況にあるのか。とりわけ多重かつ多様な市場拡大の内実と、供給サイドの大企業・中小企業、臨海・内陸の各レベルにかかわる原材料調達や生産設備・技術の状況、資金・人的資本の調達状況について、より実体経済に即した議論が必要である。

本セッションはかかる問題意識にもとづき当番校による企画として準備され、3人の内外の研究者による報告が行われた。

杉本孝（大阪市立大学大学院創造都市研究科）「リーマンショック後の中国鉄鋼業」は、2008年8月の北京オリンピックの前後から同年秋以降の世界金融危機、およびその回復過程にかけての市場構造・貿易構造の変化を分析したもので、その詳細は以下に収録されている。

袁鋼明（中国社会科学院経済研究所）「中国マクロ経済の過熱・過冷と鉄鋼業の驚異的発展」は日本語によって報告され、政策当局の一貫した引き締め政策・構造調整政策にもかかわらず、21世紀に入って以降の中国の経済成長率および鉄鋼業の伸びは大きく、潜在成長力、地方の有効需要に鑑み、経済危機下の構造調整政策もこれまでと同様に失敗するとの見通しが述べられた。

韓光燦（京都大学大学院経済学研究科特別研究員）「市場経済移行期における中国鉄鋼業の

分析：近代化過程における幾つかの論争をめぐって」は公募報告で、鉄鋼業の主管部門たる旧冶金工業部を中心に歴史的に展開された技術・立地選択にかかわる「平炉—転炉論争」, 「全面導入・部分導入論争」(フルセット型の技術導入か部分改良か), 「立地論争」(原料立地型の内

陸部拠点開発, 「三線建設」をめぐる歴史的経緯, さらには宝山製鉄にかかわる原料輸入と臨海型立地をめぐる議論)が紹介され, 導入技術の国産化と臨海型立地を内容とする今後の発展の方向性が示唆された。

(たじま としお・東京大学社会科学研究所)

【論文（特集：中国の鉄鋼業）】

リーマンショック後の中国鉄鋼業： 爆発的拡大基調への復帰

杉本 孝

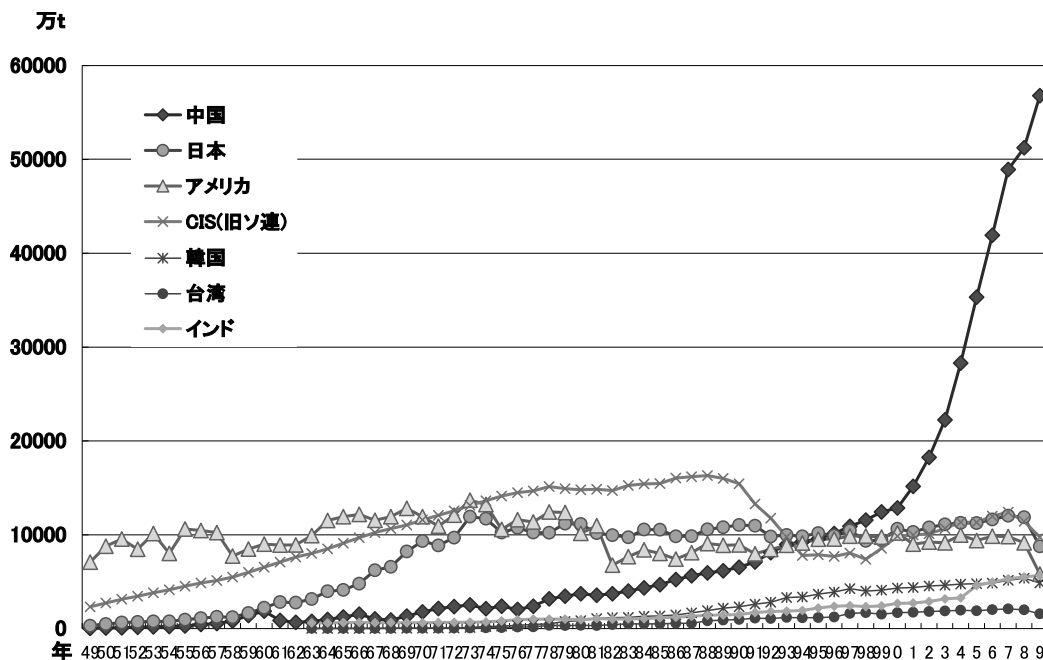
【キーワード】 中国鉄鋼業，山西省の小躍進，価格上昇局面における買い急ぎ効果，
価格下落局面における買い控え効果，生産水準決定価格
【JEL 分類番号】 L61

1. はじめに

2009年の中国の粗鋼生産量は5億6784万トに達した（図1）。中国鉄鋼業が2001年以降2007年までの間に爆発的拡大を遂げた状況については、すでに前論文において明らかにした通りである¹。その後2008年にはリーマンショックに

端を発する世界的規模での金融危機，経済危機の影響を受け，中国の粗鋼生産量の伸びは大幅に鈍化した。しかし，中国が2008年に前年比で2300万トもの増産を達成したことは，注目されてよい。2007年の時点で3000万ト以上の粗鋼生産規模を有していた国は中国，日本，アメリカ，ロシア，インド，韓国，ドイツ，ウクライナ，

図1 中国の粗鋼生産推移（国際比較）



（資料）『中国鋼鉄統計』各年版，『鉄鋼統計要覧』各年版および「中国鋼鉄工業統計月報」2009年12月，日本鉄鋼連盟データより筆者作成。